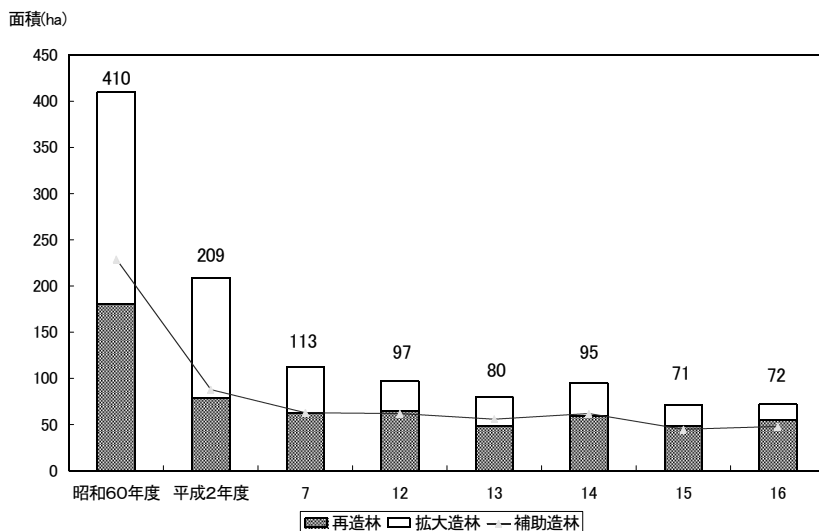


2. 森林の整備

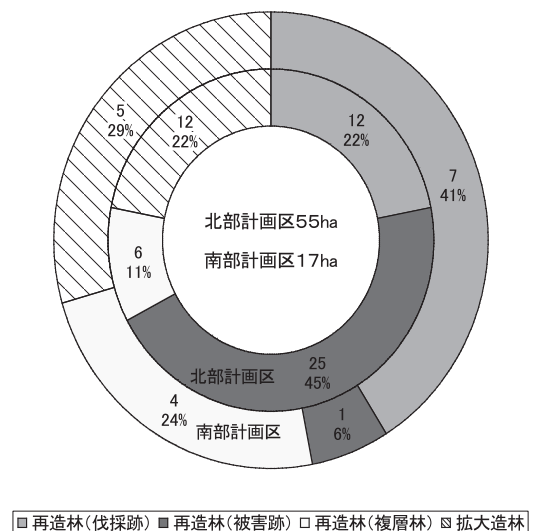
(1) 人工造林

— 対前年 1 ha の増加 —

造林種別人工造林面積



地域別人工造林面積



本県の人工造林面積は、近年減少傾向で推移していたが、平成 16 年度は前年度に比べ 1ha 増加して 72ha となった。昭和 60 年度の 410ha と比較すると 1/5 以下となっている。この内補助造林は 48ha であり、前年度より 3ha 増加した。その結果人工造林面積に占める割合は 67% となった。

造林種別内訳は、再造林が前年度より 7ha 増加して 55ha、拡大造林は前年度より 6ha 減少して 17ha となっている。

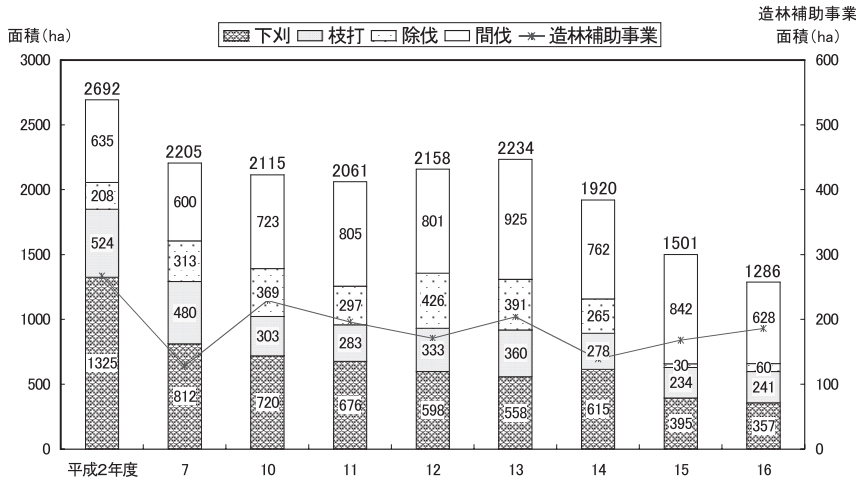
平成 16 年度実績を地域森林計画区別に見ると、北部計画区が前年度より 5ha 増加して 55ha となり、全体の 76% を占めた。その内訳は、前年度と同様スギ非赤枯性溝腐病等の被害跡地造林を中心に再造林が 43ha と大半を占めている。一方、南部計画区は前年より 4ha 減少して 17ha となった。前年度に比べ再造林が 3ha 減少の 12ha、拡大造林は 1ha 減少の 5ha で、再造林が過半を占めた。

また、造林樹種別の面積構成はスギが 44% (32ha)、ヒノキ 42% (30ha)、マツ 7% (5ha)、広葉樹 7% (5ha) となり、前年度に比べスギが 2ha 増加し、ヒノキが 4ha 減少した。昭和 60 年度 (スギ 66%、ヒノキ 31%、マツ 2%) と比べると、近年はスギが減少し、ヒノキが増加している。

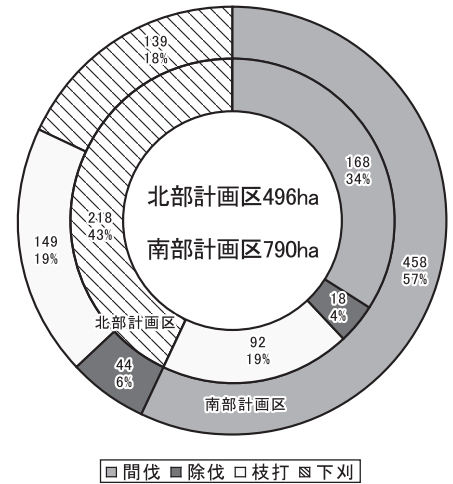
(2) 間伐・保育

— 間伐・保育実施面積が大幅減少 —

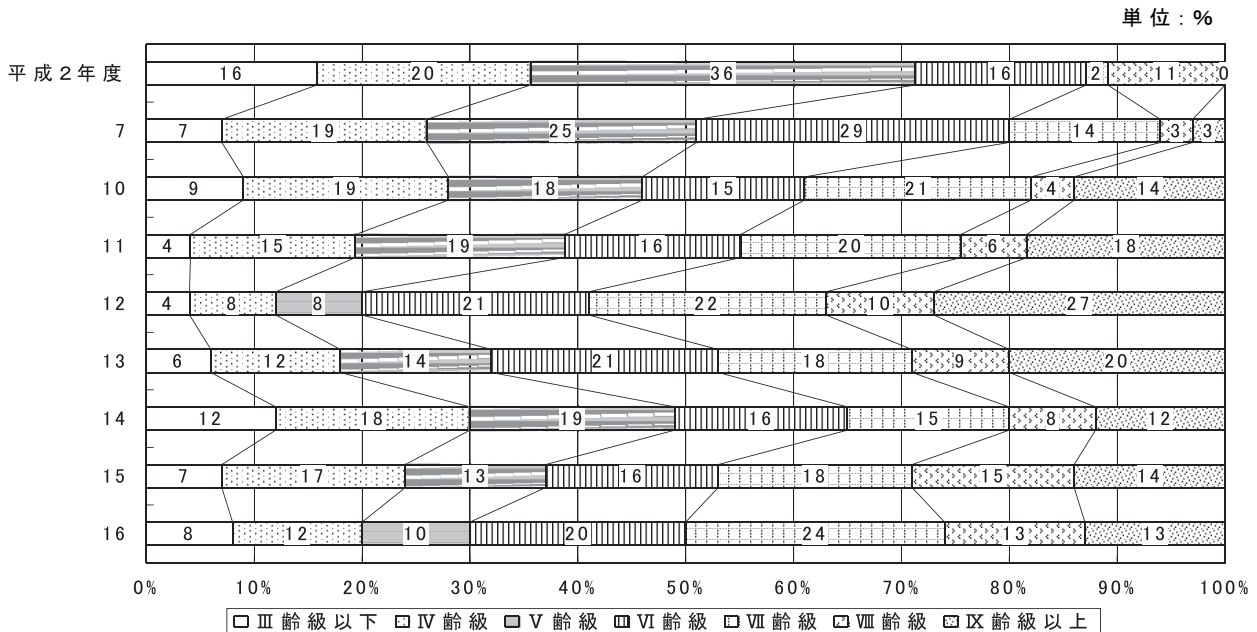
間伐・保育面積の推移



地域別間伐・保育面積



間伐の齢級構成の推移



本県の間伐及び保育の実施面積は、近年、全体としては2,100ha～2,200ha程度で推移していたが、平成16年度は1,290haと3年連続で2,000haを下回った。種類別には、下刈が減少し、間伐が増加傾向にあったが、平成16年度は、間伐が対前年比75%と大きく減少した。

平成16年度の地域別傾向としては、間伐・保育面積全体では南部が北部の約1.9倍となっており、南部に集中する傾向にある。その種類別内訳では、北部で下刈、枝打ちが62%を占めるのに対し、南部では逆に除間伐が63%を占めている。

間伐実施面積を齢級別にみると、平成12年度まではⅦ齢級以上の割合が一貫して増加していたが、平成13,14年度はⅢ～Ⅴ齢級が増加し、平成16年度はⅥ・Ⅶ齢級の44%を中心に、若齢級から高齢級までバランス良く実施されている。